

甘肅省より輸入するは、米其の大部を占め、製羊皮之に次ぐ。同省へ輸出する物は、露貨及羊皮、鹽とす。又烏魯木齊より輸入するは、齊しく露貨にて、同地へ輸出するは、羊皮並に哈密瓜とす。此の地旅店は八戸、駱駝廠五戸を有せり。但し旅店、駱駝廠の多寡は以て其の地の商業如何を卜するの標準たるに足れりとす。

此地の通貨は、尙ほ制錢を用ゐ、一兩は一千文なるも、銀税ありて九百文となる。又紅錢(銅)は四百文の定めとするも、誰も之を授受するを喜ばず。聞く是より西方六日行程の處迄は、制錢を使用し得べく、然れども其の以西は、皆紅錢にて、制錢は更に用ひずと。

城内に電報局あり。省内は一漢字銀二分、省外は三分洋字(五字綴十)は之を倍價とす。當地と北京間にて、特別急報凡そ二日を要す。郵便局は未だ其の設なく、驛傳あるも公文のみを扱ひ、私信は總で幸便を待たざるべからず。

軍隊は協臺の下に一營即ち五百人を設くるの制あるも、現に百三十名あるのみ馬隊一旗即ち百二十五騎を置くの制なるも、亦現に三十餘騎あるに過ぎず。協臺は漢城の東門内に駐在し、軍營は城の西北方に、其の練兵場は西門外に在り。又管